

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調査

No. 0502007

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	7 高齢者支援の充実	事業優先度	B	
単位施策	2 生活支援の充実	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	居宅老人交通費助成事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	交通費助成券の利用率		#N/A	
事業目標	全対象者への交通費助成	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名	1 居宅老人交通費助成要綱	
住民協働		関係個別計画名	1 高齢者保健福祉計画	

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容
計 画 内 容	○ハイヤー利用助成券交付 対象者 (1)75歳以上で自動車を有していない者 (2)70歳以上のみの世帯で自動車を有していない者	ハイヤー利用助成券交付	ハイヤー利用助成券交付	ハイヤー利用助成券交付	ハイヤー利用助成券交付	ハイヤー利用助成券交付
	○交付枚数 年 24枚(夫婦世帯は18枚)					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	25,980	5,600	5,600	5,600	4,590
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	9,000				4,500
その他	0					
一般財源	16,980	5,600	5,600	5,600	90	90
実 績 事 業 費	事業費(千円)	22,772	4,543	4,449	4,514	4,675
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	13,500			4,500	4,500
その他	0					
一般財源	9,272	4,543	4,449	14	175	91
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) 地方債 ・過疎対策事業債ソフト分 【評価・実績】	(実施内容等) ハイヤー利用助成券交付 ・助成券印刷代 ・交付枚数 11,130枚 ・利用枚数 8,410枚 (単身 355名・夫婦 145名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ハイヤー利用助成券交付 ・助成券印刷代 ・交付枚数 11,028枚 ・利用枚数 8,232枚 (単身 344名・夫婦 154名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ハイヤー利用助成券交付 ・助成券印刷代 ・交付枚数 11,154枚 ・利用枚数 8,356枚 (単身 350名・夫婦 153名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ハイヤー利用助成券交付 ・助成券印刷代 ・交付枚数 11,142枚 ・利用枚数 8,659枚 (単身 357名・夫婦 143名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ハイヤー利用助成券交付 ・助成券印刷代 ・交付枚数 10,896枚 ・利用枚数 8,500枚 (単身 352名・夫婦 136名) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値 540人	540人	全対象者への交通費助成	全対象者への交通費助成	全対象者への交通費助成
	年度達成率	81%	79%	81%	102%	100%
	全体達成率	17%	35%	52%	70%	88%

事業名	居宅老人交通費助成事業	評価者	管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎佳之
		評価者	作成者 職氏名	社会福祉係長	磯田昭次

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	交通費助成券の利用率								
【抱える課題やニーズは】	高齢者が健康で生きがいのある生活が送れるよう、各種高齢者福祉サービスの充実など総合的な支援が求められている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	高齢者の生きがいづくり、生活支援、社会活動への参加を促した。	① 利用された助成券の枚数 ÷ 交付した助成券の枚数 = 助成券の利用率	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>平成24年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>10,896枚</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>8,500枚</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>78.0%</td> </tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	10,896枚	実績値	8,500枚	達成度	78.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	10,896枚										
実績値	8,500枚										
達成度	78.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	外出する機会が少なくなりがちな高齢者に対してひとつのきっかけにするとともに、生きがいづくりや健康増進を図る。	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>#DIV/0!%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	助成券の交付	対象者からの申請に基づき審査を行い、交通費助成券を交付した。									
	交通費助成券利用分の支払い	交通費助成券利用分(基本料金相当)を第一ハイヤー株式会社へ支払った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	自家用車を持たない町民の移動手段として、町内を走るハイヤーは最も利用しやすい「足」であり、買い物や通院など外出の際に要する利用料金の一部を助成することは、交通弱者への支援と負担軽減に繋がり必要性は高い。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことで、高齢者の外出時における利便性が向上され、健康増進や生きがいづくりに繋がる手段として有効である。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	前年度の申請者については、予め申請書を作成しておくことで、申請書を記載する時間と待ち時間が短縮できた。今後も事務処理の工夫をしながら経費節減に努めている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	必要な条件を具備していれば、全ての申請者に交付されることから公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

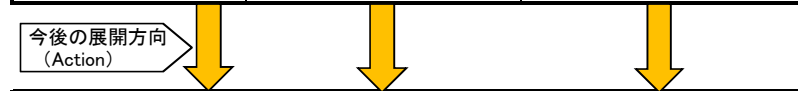
■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
急激に進む高齢化社会において、高齢者一人一人が健やかに暮らしていくための有効な事業であり、今後も計画に沿って進めることが適当である。		



継続/現状維持
高齢者にとって住みよい環境と安心した地域生活を提供するため、外出に際しての「足」の確保策として有効な事業であり、利用状況を精査しながら継続支援をしていきたい。

※展開方向の区分